



● 草の根パートナー型

平成19年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	フィリピン
2. 事業名	アムナイ川流域少数民族保健支援システムの構築
3. 事業の背景と必要性	地域人口（サンタクルス町）の2割以上を占めるマンニャン族は、国連の定めたミレニアム開発目標で掲げられているターゲットのほとんど全ての対象となるほど開発が遅れており、中でも健康衛生状態は惨憺たる状態である。乳幼児死亡率は極端に高く、成人する子どもは4割にも満たず、マラリアや結核が蔓延している。しかし、民族の原始的かつ山岳地帯を中心とした半遊牧生活様式はいまだに現代社会から隔離、疎外された観があり、差別や偏見も相まって改善の糸口が見つからない。地域住民が医療施設へアクセスできるためのシステムを構築することは、教育を含めた包括の開発に他ならず、地域の人間の安全保障を確立するための第一歩である。
4. 事業の目的	マンニャン族保健衛生支援システムを構築し、マンニャン族の乳幼児死亡率を改善、妊産婦の衛生状況の改善、死亡率全般の低下をめざすことで人間の安全保障の確立に寄与する
5. 対象地域	フィリピン共和国西ミンドロ州サンタクルス町 アムナイ川流域各村
6. 受益者層	フィリピンミンドロ島に居住する少数民族マンニャン族、とくにアラガン部族約6500人
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. アムナイ川ヘルスケアセンターの設立 協会の助産師を常駐させ、患者の応急処置、地域住民への衛生教育、ヘルスサポーターの教育、予防接種、結核患者等地域患者のモニタリングを行う。このことにより、健康の土台である衛生観念の育成と予防を普及させた。医療施設へのアクセスを阻む地理的経済的問題を解消する。 2. サンタクルス病院付属患者及び家族待機施設の設立、運営 町に患者及び家族の待機施設を建設し、宿泊施設と食事を提供する。町に身寄りがないため重症の患者が山と町を何度も行き来することも多かった。そのため宿泊施設の設立によって患者の経済的負担を軽減し、医療機関の利用を推し進める。 3. ヘルスサポーターの育成 協会の元奨学生を中心に人選、内外の医療研修に参加させ医療知識の基礎教育を行い、町の病院での患者の予備問診、ケア、マンニャン村での健康検査、患者のモニタリング、村と病院間の連絡などを受け持つ。これにより患者の精神的負担の軽減、医療機関での正確な情報のやりとり、患者の早期発見から医療完了までの一貫したサービスが可能となる。 4. アムナイ川流域巡回衛生教育の実施 ヘルスケアセンターに常駐する助産師とステーションの識字教育担当者、ヘルスサポーターが協力してマンニャン集落で衛生についてのセミナーを継続的に行う。このことにより健康の基礎である衛生観念を育て、また、医療機関への理解、利用を促進する。 5. 衛生普及活動 衛生観念を育てるためのツールやインフラを開発し、導入する。村人の健康状態を記録するモニタリングシートを作成、また、非識字者に有効な衛生教育用教材を開発、作成するとともに、トイレや水道（深井戸）を設置し、その利用を習慣づけることで衛生観念を育てる。 6. 少数民族健康互助制度の試験運用 各集落に共同菜園を運営し、患者への食料援助、町の患者及び家族待機施設への食料供給（一部）を行う。将来的には地域に教育、農業、自然環境保護、医療全般を網羅した協同組合を立ち上げ、その利益の一部を医療援助に、また、簡単な医療保険制度を作り、住民の自立を育成する 7. マンニャン伝統医療の活用 伝統医療の中には呪術的なものも多く玉石混交であるが、近年抗生剤の普及などで伝統的に利用してきた薬草についての知識体系が失われつつある。下痢やマラリアの高熱、産褥期の体力回復などに非常に有効な薬草も多く、市販薬の正しい飲み方を教えると共に、伝統的薬草利用を科学の光に照らし再発掘することは、薬害を防ぎ経済的負担を軽減するなど大きな意義があると考えられる。
8. 実施期間	2008年4月～2011年3月（3年）
9. 事業費概算額	18,659千円（予定）
10. 事業の実施体制	現地にプロジェクトマネージャー、日本人の現地調整員を配置し、ヘルスケアセンター長としてマンニャン出身の助産師を任命する。また、日本人スタッフが衛生指導員として各村の巡回衛生指導を担当するとともに、ヘルスサポーターを訓練し、マンニャンの病人の支援の実働部隊とする。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 21世紀協会
2. 活動内容	少数民族マンニャンの人間開発をめざし、人間開発センターを運営。識字、学校教育、農業農村開発、医療衛生援助を含むマンニャン族総合開発を手がける。